

1 内政

（1）法医学研究所所長の選出

4日、元グアテマラ弁護士・公証人組合副代表のファヌエル・ガルシア氏が、新たな法医学研究所（I N A C I F）所長に選出された。任期は2017年から2022年である。ガルシア新所長は、I N A C I Fの所長として、同研究所による捜査の質の改善や裁判の迅速化のために、同研究所の活動の見直しに取り組む旨述べた。

（2）憲法裁判所による県知事任命の取り消し裁定

11日、憲法裁判所は、モラレス大統領に対して、7名の県知事の任命手順に不備があったとして、それら7名の県知事の任命を取り消す裁定を出した。同裁判所の裁定は、モラレス大統領が、県開発委員会（C O D E D E S）が推薦した3名の候補者から大統領が県知事を選出するという行政基本法の規定を守らず、7名の県知事を直接選んだとしている。同裁定は、国民希望党（U N E）の異議申し立てに基づいて行われた。

（3）政府による非常事態宣言の発出と国会における否決

17日、政府は国の主要幹線道路の改修（穴埋め）工事を促進することを目的とした非常事態宣言を発出した。モラレス大統領は、「当国において幹線道路整備は緊急の課題である」として、政府が入札を経ずに道路工事用の機械購入等の予算支出ができるようになる非常事態宣言の妥当性を主張した。20日、同宣言に対する審議が国会で行われ、否決された。反対票を投じた国会議員らは、今回の非常事態宣言は不透明であり、道路整備には他の手段があるとの意見で一致した。

（4）人権擁護官の選出

19日、国会における審議を経て、アウグスト・ロダス氏が新たな人権擁護官に選出された。ロダス新人権擁護官は、2004年から2008年の間ケツアルテナンゴ市の市議会議員を務め、2015年にはグアテマラ弁護士・公証人組合の副代表を務めた。就任に際し、ロダス新人権擁護官は、ベラスケス・グアテマラ無処罰問題対策国際委員会（C I C I G）委員長およびアルダナ検事総長と会談を持つ計画を明らかにした。

（5）モレノ社会開発大臣の辞任

28日、モレノ社会開発大臣は、辞表をモラレス大統領に提出し、大統領が承認した。辞表には個人的な理由により辞任する旨記載されているが、社会開発省の予算執行率が低く留まっていることが辞任の主な原因の1つだと見られている。7月27日時点での、同省の2017年の予算執行は、配分された9億2,300万ケツアル（約138億4,500万円）中、12.78%の1億1,790万ケツアル（約17億6,850万円）に

留まっており、当国省庁の中で一番低い予算執行率となっている。

（当館注：8月8日、モラレス大統領の経済・財政担当顧問として働いていたエンニオ・ガリシア氏が新社会開発大臣に就任した）

2 外交

（1）アレアガ次期駐グアテマラ米大使の米議会における公聴会

19日、アレアガ次期駐グアテマラ米大使は、米上院議会国会委員会による公聴会の場で、大使就任後は、当国において汚職、麻薬取引、組織犯罪などの撲滅に取り組む旨述べた。アレアガ次期大使は、米国とグアテマラは、検察庁とグアテマラ無処罰問題対策国際委員会（C I C I G）が中心となって取り組んでいる汚職撲滅活動を続ける必要があると発言した。

（2）モラレス外相の台湾訪問

20日、モラレス外相（当館注：8月27日に解任された）は二国間関係強化のために、台湾政府の招待に応じる形で台湾を訪問した。モラレス外相は、李大維・外交部長と会談し、協力分野などにおける両国の関係強化に関して意見を交わした。また、台湾訪問中、同外相は、台湾の汚水処理や資源のリサイクルを行う設備の視察を行った。

（3）マーシャル諸島との外交関係樹立

モラレス外相は、20日、台湾において、フレデリック・ミュラー駐台マーシャル諸島大使とグアテマラおよびマーシャル諸島間の外交関係樹立にかかるコミュニケに署名した。

3 経済

（1）最高裁による鉱山採掘許可の一時的停止決定

7月5日、最高裁は、カナダ資本のサンラファエル鉱山会社（サンタロサ県）による銀等の採掘に対し、採掘許可を一時的に停止する判決を下した。最高裁は、採掘を行う上で、ILOの原住民および種族民に関する条約（第169号）に定められている政府（エネルギー・鉱山省）と先住民との協議が行われていなかったと判断したため、停止判決を下した。マロウフ当地経団連（C A C I F）会頭は、「投資を保証するための法制度が無ければ、当国が外国からの投資を受け取られない状態が続くだろう」として、最高裁の決定を批判した。

（2）2017年第一四半期のGDP成長率

5日、レシーノス中銀総裁は、2017年第一四半期のGDP成長率が3%だったことを発表した。3%の成長率に寄与した主な理由は、米国からの海外送金額の増加と、送金額の増加による消費の増加であるとレシーノス中銀総裁は説明した。また、2017年上半期の海外送金受取額が4億5百万ドルで、前年同期比で15.3%増となったことも合わせて発表された。

（3）国税庁による徴税額の発表

１７日、ソロルサノ国税庁（ＳＡＴ）長官は、２０１７年６月の徴税額が４６億ケツアル（約６９０億円）に達し、６月の目標額を４億４、６５０万ケツアル（約６７億円）上回ったことを発表した。前年同月に比べて、２１％増の徴税額となった。

（４）当国輸出団体と中国の機関間の貿易関係強化に関する覚書の署名

２１日、エルサルバドルにおいて、グアテマラ非伝統産品輸出業協会（ＡＧＥＸＰＯＲＴ）と中国国際貿易促進委員会との間で、両国の貿易関係強化に関する覚書の署名が行われた。この覚書は、両機関における技術的協力、情報共有などを通して、当国と中国間の貿易関係強化を目指すものである。２０１２年から２０１６年にかけて、中国の対グアテマラ輸出は年率１０％で伸びた。輸出の伸びを見せた主な品目は、鉄、木材、リサイクルされたプラスチック、衣類などである。

（５）中銀による２０１７年ＧＤＰ成長率予測の下方修正

２６日、中銀は、当初３％～３．８％としていた２０１７年のＧＤＰ成長率の予測を、上半期の経済指標を考慮して下方修正し、３％～３．４％との予測を新たに発表した。ＩＭＦと国連ラテンアメリカ・カリブ経済委員会（ＣＥＰＡＬ）は、３．３％との予測を出している。

◇主要経済指標◇	2017 年			2016 年	2015 年
	7 月	6 月	5 月		
インフレ率（前年同月比）	5.22%	4.36%	3.93%	4.23%	3.07%
貿易収支(百万ドル)	未発表	△610.7	△566.1	△6,532.0	△6,913.1
輸出(百万ドル)	未発表	895.3	987.3	10,465.3	10,726.2
輸入(百万ドル)	未発表	1,506.0	1,553.4	16,997.3	17,639.3
外貨準備高（百万ドル）	11,024.9	10,793.9	9,916.0	9,160.4	7,751.2
外国からの送金（百万ドル）	664.2	723.7	747.4	7,160.0	6,285.0
為替レート（対ドル月平均）	7.31	7.34	7.34	7.62	7.65

（出所：中銀、国立統計院）

注）2015 年および 2016 年の為替レートは年平均